

## 植物多様性センターの「モクレイシの訪花昆虫」

武蔵野ゾーン果樹林エリアの脇で、雌雄異株のニシキギ科のモクレイシの花が咲いています。学習園の個体は雄株のみですが、暖かな日には香りにつられて多くのハエやアブがやってきます。冬咲きの花は、低温でも活動できるこれらの昆虫が花粉を媒介するといわれています。モクレイシの花も例外ではないようです。しばらく見ていると、体長2mmほどの小さなハエから体長10mmほどのキンバエのような大型のハエまで、多種類が観察できます。



ニクバエの仲間:独特の香りに誘われてやってくる?



ホソヒラタアブ:口吻を伸ばして花粉を舐めている様子



小型のハエ:大きさも種類も多様なハエが訪花する



花の中心部の拡大:訪花昆虫がこぼした花粉が付着する